



「戸倉の海はやっぱり落ち着く」と話す小野寺翔さん(左)、三浦貴裕くん(右)

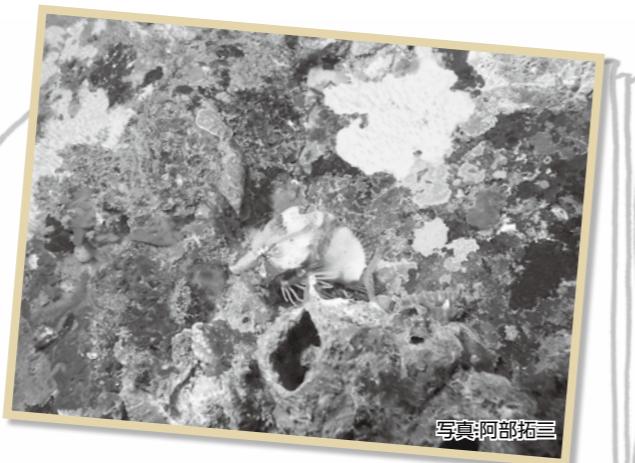
戸倉地区出身の小野寺翔さんと三浦貴裕さんは、震災時、戸倉中学校の2年生だった二人は今年成人式を迎えた。高校卒業後、小野寺さんは関東の大学へ。三浦さんは、仙台の大学へ進学した。町を離れ陸を訪れ、自ら語り部となつて町を案内した。多い時は30人以上が集まつたこともある。「伝えていくことに意味を感じた」と二人は話す。そして、一度外に出て、故郷・南三陸を見つめなおすことは二人にとっても新鮮であり、大きな気づきを得ることにつながった。

小野寺くんはこの春、大学を中退し、林業の専門学校へ転入した。町で奮闘する林業家に出会い、「代々受け継いできた山を守りたい」と思ったことがきっかけだ。三浦くんは、語り部や南三陸を伝えるイベントに力を入れたいと意気込む。「震災後の縁で可能性が広がっている」と話す。

二十歳になつて迎えた春。二人は別々の道を歩み始めました。それでも「戸倉がぼくたちのふるさと!」と声をそろえる二人。大海からふるさとに戻つてくる鮭のように、南三陸で二人が輝く日を期待せざるを得ない。

この町が
ぼくたちのふるさと!
【小野寺さん・三浦さん】

戸倉地区出身の小野寺翔さんと三浦貴裕さんは、震災時、戸倉中学校の2年生だった二人は今年成人式を迎えた。高校卒業後、小野寺さんは関東の大学へ。三浦さんは、仙台の大学へ進学した。町を離れ陸を訪れ、自ら語り部となつて町を案内した。多い時は30人以上が集まつたこともある。「伝えていくことに意味を感じた」と二人は話す。そして、一度外に出て、故郷・南三陸を見つめなおすことは二人にとっても新鮮であり、大きな気づきを得ることにつながった。



ネイチャーセンター準備室だより 「南三陸のユニークな生き物たち」

南三陸の海は彩り豊かな生き物たちで溢れています。海底にライトを当てれば、赤やピンク、オレンジに黄色などがモザイク状に並ぶ美しい世界が浮かび上がります。さまざまな種類の海藻や、ホヤの仲間、貝類、海綿動物と呼ばれるスポンジ状の生き物など、多様な生物が演出する、もう一つの地球の姿と言えるでしょう。

写真の中央にいるのはクチバシカジカです。黄色がかかったオレンジ色の体色でカラフルな海底環境に見事にとけ込んでいます。先月ご紹介したダンゴウオたちもこうした海底に散らばって身を隠しています。水中でこの魚たちを見つけるのはと

ても大変ですが、小さくても個性溢れるその姿に出会った瞬間は思わず息をのみます。

今、役場一階の案内窓口隣では、クチバシカジカやダンゴウオをはじめとした南三陸のユニークな生き物たちの水槽展示を行っています。色も形も動きも可愛らしい生き物たちをぜひご覧ください。

農林水産課 ネイチャーセンター準備室 ☎25-9703

南三陸なうなうなう

南三陸なう

検索

小野寺さん、三浦さんをもっと詳しく知りたい人は、南三陸公式ブログ「南三陸なう」をご覧ください。

百寿のお祝い 阿部 勲さん(戸町)



3月21日(火)、百寿を迎えた阿部勤さん(戸町)に、町からお祝い金と花束が贈られました。

阿部さんは、曲がったことが嫌いで、質実剛健な人だとご家族は話します。いつまでも元気で。百寿おめでとうございます。

みな
レポ



園児の笑い声が集う保育所へ

4月14日(金)、志津川保育所起工式が執り行われました。

同所は、建物の老朽化が進み、保育所機能と図書館機能を併せ持つ一体的な施設として建設を予定していました。しかし、東日本大震災により床下浸水したため、より安全な高台である志津川中央団地の一角に建設することとなりました。

完成は、今年の12月。園児の笑顔が溢れ、笑い声が聞こえる明るい保育所になることでしょう。



新しい防災拠点、歌津消防庁舎が完成

4月17日(月)、南三陸消防署歌津出張所庁舎落成式が執り行われました。

旧庁舎は、東日本大震災によって全壊となつたため、署員はトレーラーハウスやプレハブ仮設での活動を余儀なくされてきました。

新しい消防庁舎は、平成の森の一角に、平屋建て鉄筋コンクリート造りで、消防ポンプ車、救急車、広報車の各1台が配備されています。被災前の庁舎に比べ建物は低くなつたものの出動準備室や屋上訓練施設が設けられ、出動しやすい体制づくりや救急搬送訓練などの立体的な訓練ができるようになりました。業務開始は、5月1日(月)からで16人の署員たちが地域の安全・安心な暮らしを守つていきます。

